

令和5年度 第2回 学校運営協議会議事録

校名	府立 四條畷高等学校
(准)校長名	稲葉 剛

開催日時	令和5年11月24日(金) 15:30~17:00
開催場所	大会議室(東館2F)
出席者(委員)	田中保和会長 鉄寿広委員 松瀬理恵委員 梅田和子委員 串田ゆか委員
出席者(学校)	稲葉校長 森教頭 轟事務長 浦井首席 堀江首席 安川教諭 西教諭 藤板教諭 秦教諭 金教諭 川口教諭 中瀬教諭 中尾教諭 宮崎教諭 中西勇教諭 末吉教諭 川崎教諭 畑(文責)
傍聴者	なし
協議資料	令和5年度 学校経営計画及び学校評価 スクールポリシー案 令和5年度第2回学校運営協議会説明スライド
備考	なし

議題等(次第順)

- 1 学校長挨拶
- 2 協議・報告
 - (1)「令和5年度取組の進捗状況」について
 - (2)今年度の活動について
 - (3)スクールミッション・スクールポリシーについて
 - (4)令和6年度使用教科書について
 - (5)その他
- 3 その他
 - ・次回協議会予定について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (2)今年度の活動について
- ・オーストラリア研修では定員20名に対し応募が69名であり、49名が選考に落ちてしまう。このような志の高い生徒に対して枠を増やすなど対応は考えられないか。【委員】
→当初は15名だったが20名に増えている。しかし、ホームステイなどの関係で20名が今のところの限界である。府の主催するオーストラリア研修の周知徹底やウェブでの参加をすることも重要だと感じている。【教頭】
 - ・挨拶運動は非常に良い取り組みであるが補足等はあるか。【委員】
→生徒会や部活動が主催で開催している。このような部分が良いと感じている。【教諭】
 - ・国際交流でベトナムボランティアツアーやオーストラリア研修の男女比はどのようになっているか。【委員】
→どちらも男子1名であり、女子がほとんどである【教頭】
 - ・このような研修活動が進路に繋がっているか【委員】
→選抜の段階で進路にどのように活かすのかを面接等で確認している。【教頭】
→高校時代の活動によって京都大学の特色入試で合格している生徒もおり、その生徒は大学でボランティアや海外での経験をしている。【教諭】
 - ・1人1台端末の活用は使うことが目的ではなく、効果的に活用するしなければならない。四條畷高校ではどのように活用しているか。【委員】
→教員全体でクロームブックの研修等はまだできていない。各自の先生が独自で活用しているので共有する場面があっても良いと感じている。【首席】
→生徒のほうが詳しく、生徒の方が先進的な活用をしており、それを教員が吸収している。【首席】
 - ・不登校が増えているがどのような支援をしているか。【委員】
→初動と予防が重要であるとともに、教員と生徒の信頼関係を構築していくことが重要なので信頼できる教員を増やしていく取り組みをしなければならない。【首席】
 - ・不登校の生徒に関して、単位を取れないと進級できないのではないかと。生徒と相談しながらどのようにして単位を取得していくかを考える。担任の負担が少なくなるように主任やコーディネーターと連携しながらの取り組みが重要である。【首席】
 - ・SSH第3期1年目だが、SSH指定校の卒業生の進路先を追跡調査しなければならない。何か追跡しているか。
→ちょうど今が卒業生の就職のタイミングであり、卒業時に調査の可否の意思確認はしており、多くの生徒が快諾している。【教頭】
 - ・生徒は水曜日17時完全下校だが、教員は早い時間に退勤しているか。
→他の曜日に比べて職員室に残っている教員は少ない。負担感が少なくなるように声掛けはしている。【校長】

次回の会議日程

日時	令和6年 2月予定
会場	大会議室